

令和元年度まちづくり懇話会 報告書

市民と行政の協働によるまちづくりをさらに推進するため、昨年に引き続き、まちづくり協議会々長と市理事者が一堂に会し、まちづくり懇話会を開催しました。



I部懇談会前半部では、一般社団法人アーバンデザインセンター坂井のチーフディレクター土井祥子氏から「三国湊におけるまちづくりのあゆみとアーバンデザインセンター坂井の活動」について講演を行いました。

後半部のメインとなる意見交換会では、23のまちづくり協議会のうち6つの団体が、それぞれ一枚の写真を提示して人づくりに関する現状や課題等を発表し、市理事者とまち協、まち協間において、活発な意見が取り交わされました。まち協と市が、地域の課題や市施策を共有しながら、今後のまちづくりに係るビジョンや方向性を確認することができました。

日時 令和元年 7月 9日 (火) 午後 3時より

会場 三国観光ホテル

I部 懇談会 越前の間

進行：まちづくり推進課 森瀬課長

開会：市長あいさつ

講演：「活動紹介」

一般社団法人アーバンデザインセンター坂井
チーフディレクター 土井祥子

アーバンデザインセンター（UDC）とは、公・民・学が連携して各主体の強みを持ちよりそれぞれが主体となりまちづくりを進めるものです。

アーバンデザインセンター坂井（UDCS）の設立経緯は、坂井市三国町の人口減少が他地区より早く進んで空き家が増えている、また、九頭竜川・竹田川と共存してきたまちで、歴史的文化が存在する三国湊に注目して三国町に設置しました。

築130年以上のかぐら建て古民家を改修して、地域の空き家問題をきっかけにまちづくり活動を行っております。これから力を入れていくことは、計画の立案・研究・シンクタンクの機能、民間活動のプロモーションなど、何かをやってみたいと思っている人への応援、さらに促進するためプロモーション機能を実施しています。



具体的な活動としては、次世代を担う若者にまちづくりに触れていただく活動を行っております。特に高校生に注目しまして、三国高校、東京大学、UDCSで「空き家活用から考える三国のまちづくり」地域連携プログラムを実施、地元を見つめてもらうために一緒に街歩きし、インタビューしたり空き家活用のイベントを企画したりしました。

また、歴史的資源の再生によるエリアの活性化の取り組みとしては、UDCSの裏手に築130年の土蔵がありましたが50年以上使用されていない状況で朽ち果てていました。この蔵を、予算があまりかけられない状況で、センターにアシスタントとして活動していた福井大学の建築の学生に、ディレクターの立場で予算、工期、デザインを主体的に考えてもらいプロジェクトを動かしてもらい改修を行いました。

そして、この空間の活用について地域の皆さんとワークショップを行いました。参加者は地元の女性が多く、コンセプトは食をテーマに交流拠点にしていきたいということで、主体的に地域の方が参加していただきまして決まりました。しかし、限られた予算のため、建物は出来ましたが、キッチンなどの設備が整っていないため、現在クラウドファンディングで資金募集を行っております。

この活動により川と共に生きてきた街ですが、ほとんど川と切り離された状態であったものを、もう一度、川に寄り添った街であることを認識していただくことが必要と感じました。

UDCSは、まだまだできたばかりの組織ではありますが、地域の方と一緒にやっていきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

意見交換会

コーディネーター兼進行

福井県立大学 地域経済研究所 講師 江川 誠一 氏



・意見交換

1枚の写真から意見交換

(発表者)

坂井木部地区まちづくり協議会	会長	吉川	裕
浜四郷地区まちづくり協議会	会長	南出	茂夫
竹田の里づくり協議会	会長	山崎	勝
大石地区まちづくり協議会	会長	前田	武雄
三国木部まちづくり協議会	会長	野尻	徹
たかとの郷づくり協議会	会長	吉田	良一



Ⅱ部 懇親会 松島の間

意見交換会 会議録

1 発表者：坂井木部地区まちづくり協議会 会長 吉川 裕



一枚の写真

発表

(発表内容)

- ・ まち協事業において人材育成や人材発掘には非常に悩んでいます。また、人口減少や少子高齢化により地域の活力が低下している現状があります。
- ・ 地域活力の活性化や人々の交流を図ることを目的に「民謡の夕べ」を例年開催していましたが、隣接する保育園の夏祭りと共催で名称変更し「坂井町木部夏祭り」を実施するようにしました。これにより多数の保護者がスタッフに加わり三世代交流が図られました。
- ・ 若い世代のまち協への関心と理解が高まり、まち協活動の担い手としての意識向上を図る仕組みづくりとして進めていきたいと考えています。
- ・ まち協ができて10年が経過しましたが、今年、未来を担う子供たちのためにどういうことができるかをテーマに若い世代の加入を念頭に置いて新たな部会を設置しました。
- ・ 各部会において「地区の将来ビジョン」について共通の認識をもって取り組んでいきたいと思ます。

(春江東部：牧野会長)

- ・ 春江東部でも比較的似たような活動を行っています。春江東小学校では地域連携学習としてアーモンドを取り上げた活動を行って3年目になります。今年度は、地域を巻き込んだ活動としてアーモンドを地区の公園に植えて、その集落の方々や子供会とアーモンドの収穫からお菓子作りまでができる体験を4集落で進める予定になっています。今年から初めて実施する活動で手探り状態ですが、少しでも輪が広がっていくのではないかと考えています。



(坂井木部：吉川会長)

- ・ 地域が参加する取り組みは非常に大事なことだと思います。私どもも10年が経つ中で地区の人が

何を求めているのかということを変更して見直すときがきたのではないかと思います。部会を新設したことによって、皆さんがどんなことを思っているのかを見つめながら取り組みを進める1つのきっかけにしたいと考えています。自分がまず楽しめなければ駄目ではないかと思っています。

(江川 L)

- ・ マンネリ化はどこでも起きており、それを打破するためにいろんなイベントを行ったり、春江東部のようにイベントから体験型で何度も参加できるような年中行事に踏み込んでいく事例もあると思います。2つの事例は他の地区にも参考になると思います。アーモンドに次ぐ新しい何かを見つけられたら楽しいと思います。



2 発表者：浜四郷地区まちづくり協議会 会長 南出 茂夫



一枚の写真

発表

(発表内容)

- ・ 浜四郷地区において松枯れの被害が出ている中、福祉環境部会が中心となって区長会と共同事業で毎年 2月に約 2,000本の松苗を植えています。また、松枯れを防ぐためにマツノマダラカミキリの活動が最盛期を迎える 5月、6月に殺虫剤を散布する事業を行っています。
- ・ 昔の松林を取り戻すために「いつまでも残そう、守ろう松林」をスローガンに 3世代の地域の方が参加し植栽を行っています。

(大石：前田会長)

- ・ 松苗の購入資金はどうしていますか。

(南出会長)

- ・ 毎年の事業としているためまちづくり協議会の予算で購入しています。

(江川 L)

- ・ 2月という寒い時期に 3世代で実施しているとのことですが、お子さんや高齢者の反応はいかがですか。

(浜四郷：南出会長)

- ・ 自分たちの実感としては、松の成長は意外と結構早いため、松が大きくなっていくのを見る楽しみもあります。子供さんはこういう共同作業に喜んで参加してくれています。

3 発表者：竹田の里づくり協議会 会長 山崎 勝



一枚の写真



発表

(発表内容)

- ・ 竹田の里づくり協議会ではしだれ桜まつりをメインに活動をしています。しだれ桜は平成5年にたけくらべ温泉の後背地を丸岡町が整備し約100本の植樹を行ったものです。植え始めて約10年経過したところから認知度があがってきました。
- ・ 竹田地区はもともと豪雪地帯であったことから、竹田じょんころ雪まつりを開催していました。しかし、温暖化により雪が少なくなったため、昭和61年から25年間開催してきた祭りを平成22年に終了しました。
- ・ 竹田地区は人口が少なく里づくり協議会の担い手となるメンバーが減少しているため、大きなイベントはしだれ桜まつりに絞り、そのほかは竹田地区の自然の美しさに磨きをかけることを主に活動を行っています。しだれ桜の植樹以外に、秋のもみじ、コスモス、芝桜を植えています。また、水車のあるメロディーパークには水仙を植えており、竹田地区を訪れる人に楽しんでいただけるよう美観維持に努めています。
- ・ 部会員が少ないため事業実施にあたっては相当な苦労と費用がかかっています。しだれ桜祭りには毎年6万人の観光客が訪れますが、警備にかかる費用や駐車場確保に毎年苦労しています。
- ・ 最近、地域おこし協力隊員の協力や T キャンプにきた学生さんの新しい提案など竹田地域に若い力が注がれています。そのほか、カフェ店をオープンする話や、休耕田を活用してハーブづくりを行い市内で販売しているという話も聞いています。
- ・ 今、一番の問題はメンバーが忙しいため会員の1/3しか集まらないことです。アイデアはありますが人手不足で実施できずメンバーが固定化されています。

(江川 L)

- ・ しだれ桜については、長い活動の末、地道に積みあがってきたものと知りましたが、並大抵ではない苦労があって、また、現在進行中の悩みもいろいろあると思います。

(春江中部：矢部会長)

- ・ 春江中部は、坂井市でも珍しく人口が増えている地域ですが、まち協の会員は徐々に減ってきています。新しい方が入ってきて、なかなかまち協の情報を伝えにくく、伝わったとしてもイベント



等には参加しますが企画から携わる方は増えていない状況にあります。新しい方が多い地区に関しては、まち協が何のためにあるのか、そんなことに税金を使っているのかとおっしゃる人もいる中、どうやって会員数を増やしていくかということについて本当に頭を悩ませています。春江中部地区は歴史的なものもなく、いまひとつ盛り上がり欠けています。そんな中で、桜を植える場所が無くなるほどやり切ったということですが、みんながそこに向かってやろうということになったのはなぜなのかを教えてくださいたいと思います。

(竹田：山崎会長)

- みんなで桜や丸岡町の木であるもみじを植えようとなってから1回目、2回目は子供も交えてみんな楽しんでいましたし、植栽が難しいものは業者に依頼して実施していました。新しいことをしていかないと、忙しいという理由で来てくれないのが現実です。子供の数も少ないですが子供が来てくれると親も来てくれます。今はTキャンプの学生が夏休み前に来ているいろんな材料を見つけてくれておりまして、いろんな提案も出てきています。芝桜を植えたのは協力隊の人が提案してくれたもので、一回やってみようということで始めたものです。最初は良いが継続するための運営方法が分かりません。また、人口が少なく30代以下の方は4、5人くらいしか居ないため50代、60代が大半です。竹田地区にはいろんな会が多く、その会長などが声をかけあって人を集めている状況です。



(江川 L)

- 地区の特性がだいぶ違うため、なかなか左から右へとはいかないでしょうが、何かお試してイベントをやってみるといのも大事なかもしれません。しだれ桜を仕掛けたけれども3年目には疲れてきたということもあるようなので、小さいことから始めることも大事かもしれません。

(土井 CD)

- Tキャンプに来られた方や文化共栄会、ちくちくぼんぼんの方たちとお会いしましたが、かねてから竹田から学ぶことはたくさんあると思っています。全戸加入の文化共栄会とは別のまちづくり協議会への参加をどういうふうに意義を感じてやっているのでしょうか。ちくちくぼんぼんの料理をつくっているのも地域のお母さん方で、そういうことが実現できることがすごいことだと思います。



(竹田：山崎会長)

- ・ 文化共栄会は、竹田地区の財産管理を行っています。ちくちくぼんぼんは、アルバイトではありますがお年寄りの収入元になっており、仕事の間ができたことで非常に喜んでます。水車やちくちくぼんぼんの管理を文化共栄会が行っているため竹田に仕事の間ができました。お年寄りの方が竹田の外に出ることはないため仕事の間があるのは非常にうれしいことです。

(土井 CD)

- ・ 協力隊の方が任期を終えられても竹田に残っているのは竹田に魅力があるからだと思えます。

(竹田：山崎会長)

- ・ 協力隊の一人はちくちくぼんぼんの料理長になりました。もう一人の方は山の手伝いをしています。協力隊が炭焼き小屋をつくりましたが後に続く者がいません。私たちがやろうと思えますが材料を運んだりすることがなかなかできない状況にあります。

4 発表者：大石地区まちづくり協議会 会長 前田 武雄



一枚の写真

発表

(発表内容)

- ・ 地域の花いっぱい運動を設立当時から行っており、参加者はまち協、区長会、地域の各種団体の総勢 60 名が花の種まきを行っています。4 月に市から提供された 3 種類の花の種をまき、6 月に各集落に約 7,000 ポッドを出荷しました。各集落の花壇に植えられた花は 11 月中旬まで花を咲かせます。
- ・ 11 月に花が咲き終わると区長会事業としてゆりの球根を配布し、各地区で花壇のプランターに植え、翌年の 5 月下旬から 6 月にかけてゆりの花を咲かせています。
- ・ まち協事業としてゆりのプランターを約 400 個制作し、春江町内の主要な公共の場や事業所にプランターを設置しています。この作業にはまち協以外にも事業所の方や大石小学校の 3 年生が参加をして作業にあたっています。小学校で作成したプランターは小学校や春江北保育所に設置しています。
- ・ 当事業は、まち協の「花・環境部会」で企画、準備を行っていますが、作業が年間を通して行う事業であることや規模が大きいため、区長会や各種団体とともに活動を行っています。
- ・ 現在のまち協は 5 つの部会で活動を行っていますが、各部会の事業について約 8 割は大石地区の各種団体と何らかの形で連携しながら進めています。事業をスムーズに進めるために各種団体の長とまち協の役員が年間の事業計画について話し合いを行っています。今年で 31 回を迎えるふれあいまつりは公民館時代から区長会、地域の各種団体でつくりあげてきた歴史があります。まち協ができた公民館がコミュニティセンターになってからは特色のある敬老会を行うということで、まち協、区長会、各種団体で企画、検討しながら毎年実施しています。
- ・ こういった下地が大石にはあったため、まち協単独では大きなことはできない、長続きしないことから、まち協の役員が仕事で忙しく参加できないときには他の団体の力を借りるということで進めてきました。
- ・ 大石地区には 17 の地区があり、農村地帯の旧元村、40 年以上前からある大きな団地、子供さんのたくさんいる新しい団地で構成されています。これからは、それぞれの強みを持ち寄ってまち協や各種団体と色々な計画を立てながら地域間のつながりを増やしていきたいと考えています。

(たかむく：瀬戸会長)

- ・ 各種団体を具体的に挙げていただけないでしょうか。

(大石：前田会長)

- ・ 数年前から区長会とまち協の活動費は一つにしているため、ほとんどの事業は共同で行っています。そのほかに、敬老会実施の際にさわやかクラブ（老人クラブ）の協力を得ています。また、ふるさとまつりの際には午前中に子供祭りを行うため、大石小学校の子供会育成会やPTAと一緒にまつりの企画を行っています。ゆりのプランターづくりについても、ゆりの里公園で毎年1時間授業を行っていますので、そのあとの1時間をまち協と小学校3年生が実際のプランターづくりを行っています。敬老会やふるさとまつりを行う団体がまち協の代議員に入っており年2回話し合いを行っています。まち協がスタートしたときには、既存事業と同様にまち協事業を行った際に団体に対して迷惑となったり、イベント時の人の取り合いになったりして、まち協が全然動けない時期がありました。それが時間の経過とともに共同で行うようになっていきます。



(春江西部：加藤会長)

- ・ 春江西部も大石を参考に他の団体と組織化していくようにしています。核となる人に入っていただくために私自身が動き、例えば農協の理事や女性団体で活動されている方、PTA出身の方に一本釣りの形で話しをして協力をいただくよう努力しています。また、区長は、1年間まち協に所属していただいております。毎年1、2名の区長に残っていただいております。そういう本当に動く人たちをいかに増やしていくかを念頭に置いて仲間づくりをしています。私自身、会長が動かなければ下は動かないという信念のもとに動いています。



5 発表者：三国木部まちづくり協議会 会長 野尻 徹



一枚の写真



発表

(発表内容)

- ・ 三国木部まち協の中核となる区長の任期は2年です。区長会の会長がそのまままち協の会長となります。
- ・ 区長は、4つある部会の部会員として所属します。区長任期は1年で終了しますが、まち協にもう一年残ります。そして、各部会長、副部会長を経験することで実質的なリーダーとなります。2年間まち協にかかわることでそれ以降もOBとなり、まち協活動の理解者となり活動を支えてくれています。
- ・ まち協も10年が過ぎ世代交代が進んでいますが、三国木部地区ではうまく回転していると思います。
- ・ 4つの部会の各部会員は14、15名で合計50名以上います。各種団体の長と地区推薦の者から成っています。年配の方が多い団体の長は理解がありまち協への参画も積極的ですが、子供を対象とした団体、若い世代の代表の長や地区推薦者の場合は違います。
- ・ 現役世代の方は、公私とも多忙で十分な活動ができません。積極的な参加が難しい状況で、また、任期が1年しかない場合が多く、もう少しまち協との関わりや参加のあり方を考えることが課題となっています。
- ・ 次世代の子供たちに残したいということで、昔ながらの農法による米づくり体験事業の支援活動を行っています。米づくりは20年前から実施していますが、8年前から無農薬での栽培を行っています。三国南小学校の児童に、まち協、JA 青壮年部が協力して手作業による田植え、鯉の放流、稲刈り体験を行っています。
- ・ 三国木部地区は、稲作地帯で農家の子供たちも多くいますが、機械化も進み農作業の手伝いも少なくなっています。米づくりの大変さや知識、食べ物に対する感謝を知ってもらうため取り組んでいます。
- ・ 将来、農業にかかわる人が出てくれればと期待しています。継続は力なりということですぐに結果の出るものではないですが、必ず芽が出て花を咲かせると思います。

(春江東部：牧野会長)

- ・ 区長をされて、まち協に入る仕組みがあって世代交代が進んでいる、面白い取り組みだと聞かせて

いただきました。春江東部のまち協は、硬直化して中心となる人が変わっていません。ほとんど同じ人が担っています。

- 私は、まちづくりカレッジに第1期生として参加しまして、現在は、NPO 法人まちづくりカレッジ Sakai の理事として参加しています。まち協の人材育成について、自分のところしかわかりませんが、マンネリ化しています。新しい見方で、みんなで意識を変えるために、まちづくりカレッジにまち協からも参加してみてもいいと思います。



(江川 L)

- 牧野会長から NPO の支援としてまちづくりカレッジに参加して欲しいと、当事者として話があり感動しました。
- 区長会から自動的にまち協に入るということで、世代交代が行われていることについて、工夫点と難しかった点があれば教えていただきたい。

(三国木部：野尻会長)

- 新人なので詳しくはわかりませんが、10年前にまち協ができたときは区長会とは別に動いていたが、お互いに上手く機能しなくなったので一緒になったと聞いています。ただし、区長会以外の一般の長の方は、まち協活動に対して意識が低いです。



(江川 L)

- 牧野会長のお話ですが、まちづくりの参加についてはいろいろな方法があると思います。まったくまち協活動をしていない方、わかっている方が、いきなりまちカレに参加して独自の活動をされている方もいます。
- 人材発掘などは、まち協からの PR とか周知がもう一つなのかなと思います。そこは、NPO さんに頑張って頂きたいです。
- それから、区長からの世代交代の話ですが、他のところの紹介を少ししますと、嶺南の熊川地区では、若い人を強制的にまず消防団に入れ、次はこれという具合に段々ステップアップする仕組みを作り上げています。
- 福井市の東郷地区は、つくね祭りという大きな祭りがありまして、この実行委員を若手に任せる仕組みをとっています。大きな祭りの委員長をすれば、周りからの信頼も集まりますしノウハウも持てるので、まちづくりの参加に広がっていきます。
- 人材育成、人材発掘は、三国木部のようなやり方もありますし、いろいろなやり方があります。

(川元教育長)

- ・ 子供たちがたくさん参加していること、皆さまのおかげでいろいろな体験学習が出来ていることをうれしく思います。
- ・ 各地域で特色ある活動を行っていただき感謝申し上げます。
- ・ 今後は、まち協が小学校に行って出前授業などを行って頂けると良いと考えております。子供たちを巻き込んで地域の事を教え、伝えることで、5年、10年成長していく中で、まち協の大切さや故郷の大切さを感じてもらえれば良いと思います。
- ・ また、日ごろは、安全部会などで子供たちの見守り活動を行って頂きありがとうございます。



6 発表者：たかとり郷づくり協議会 会長 吉田 良一



一枚の写真

発表

(発表内容)

- ・ 当まち協は、鷹取山のふもと丸岡町高椋東部地区で活動しています。世帯および人口は 700 世帯 2550 名です。
- ・ 事業としては、鷹取山登山事業および関連する登山道整備を行っています。また、継体天皇の母「振媛（ふりひめ）」の故郷といわれるところで、まち協ではマスコットキャラクター「ふーちゃん」を通じて地域に愛着を持ってもらうために T シャツやキーホルダーなどを製作し PR に努めています。
- ・ 役員は 101 名で 2/3 が、区長や推進委員など充て職で活動していますが、充て職の場合は 1 年 2 年で人が変わっていくので、まち協に残ってほしいと声掛けをしていますなかなか難しい状況です。
- ・ 昨年 1 1 月にまち協事業を振り返って改善点などを検討するため「たかとり学級委員会」と題して研修会を実施しました。1 時間目は、まちづくり推進課職員からまち協事業の心構えや進め方について講義。2 時間目 3 時間目は、これまで実施した事業についてグループ討議を行い部会の見直しや負担軽減など意見交換ができ有意義な研修を行いました。

(春江中部：矢部会長)



- ・ 役員について 1 年・2 年で変わられたり、充て職で就かれたりと継続性が無いので春江中部地区では、現役世代にお願いしています。
- ・ 何年か前にまち協事業に行政がかかると地域のつながりが薄れてくると発言したことに逆向しますが、まち協の会に行政の方の参加をお願いしたい。

(副市長)

- ・ 市の職員については、地域の行事に参加するように常に言っていますので、参画していると思います。また、まち協からも参加の呼びかけをしていただければと思います。今後も、市として地域行事への参画を働きかけていきますのでよろしくお願いします。

(竹田の里：山崎会長)

- ・ 運営協議会とまち協はどのような関連がありますか。

(森瀬課長)

- ・ コミセン運営協議会は、コミュニティセンターが主体となりコミセンの活動などをどのように運営していくか検討する会です。役員には区長や各種団体の長が入っていただいています。各コミセンでどの様な方に入っていただくかなどはそれぞれですのでメンバーに違いがあります。

(磯部地区：中垣内会長)

- ・ 以前は、区長会が主になったり、まち協が主になったりしていましたが、現在は、まち協が各町内から協力金・運営費を集めてまち協で管理しています。事業についてもまち協が各種団体の方を集めて協力金の使い方を話し合っ決めて決めます。大きい事業になると区長会の承認を得ています。



(雄島地区：鹿島会長)

- ・ 雄島地区も以前は、区長会と仲が悪く運営が難しかったが、事業は地域に住む子供たちにスポットをあてて展開する必要があるため、区長会と組む必要がありました。
- ・ 子供たちの気持ちが一番わかるのは、学校の先生や親御さんで、どの様にしなければならないかを考えました。
- ・ まち協の中心メンバーが高齢化していく現状を考えた場合に、やはり PTA など若い人たちの参加が必要であると考え、参加して欲しいと 2年3年足を運び頼んだが結果は上手くいきませんでした。
- ・ 理由は、我々が考えたものを一緒にやってくれというスタンスが間違っていることを彼らから教えられました。そこで、事業を企画する段階から一緒に入ってもらう必要があることがわかりまして、今では、小学校校長・PTA・子供会・区長会・まち協・コミセンの代表者が集まる会を年4回行っています。
- ・ メンバーが変わったことで、我々が考えるよりも子供たちに役立つ内容を事業に織り込むことが出来てきました。
- ・ 4つある部会のうち3つの部会長は30代40代で責任を持ってやってもらっている。彼らは頭も柔軟ですし、事業の準備も体力があるからスムーズに行っています。
- ・ もっともっと若い人たちと組む、そういう方向が必要だと感じました。そうすれば、もっともっと発展していくのではないかと思います。



(江川 L)

- ・ 活発な意見交換により時間が多少オーバーしました。司会としてお詫び申し上げます。
- ・ 区長会との役割分担や各種団体との連携、引継ぎのところまで話が出たと思います。各種団体との

横のつながりも大事ですし、各地区内で情報交換することで目から鱗のような話も出たと思います。

- ・ 一枚の写真は2年目でございます。なるべくみなさまに負担がかからないように議論が行えるように進めてまいりました。
- ・ 議論は尽きませんが、最後に市長から一言いただきたいと思います。

(坂本市長)

- ・ 今日、まちづくり懇話会ということで各会長さんには熱心にご審議頂きまして厚くお礼を申し上げます。
- ・ 冒頭で、土井様からアーバンデザインセンターのあり方ということでお話があり、全国で7番目に設置されたアーバンデザインセンター坂井、特に、三国の人口は合併してから1割ぐらい減っているし、空き家についても増えているということです。
- ・ アーバンデザインセンター坂井は、基本的に三国を拠点に活動していますが、全体的にこれを広げていただけたらありがたいと思っていますし、いろんな皆さんのお話を聞く中で最終的には、まちづくりの基本となっていくのは、人と人の繋がりだと思います。
- ・ いくつかお話が出ていましたが、まちづくり協議会での大変なご苦勞、ご心配もおかけしまして、様々な活動に取り組んでおられることは、坂井市として県外においてもまち協を自慢できるような、そういう組織になってきたと思っています。
- ・ いろいろな課題も山積していると思いますが、今後ともまち協の会長をはじめ、いろんなご意見等を頂きながら坂井市の発展に鋭意努力していきたいと思っていますので、変わらぬご支援賜りますようお願い申し上げます。
- ・ 懇親会でもいろいろなご意見等頂けばありがたいと思っています。本日はありがとうございました。

